



子守帯

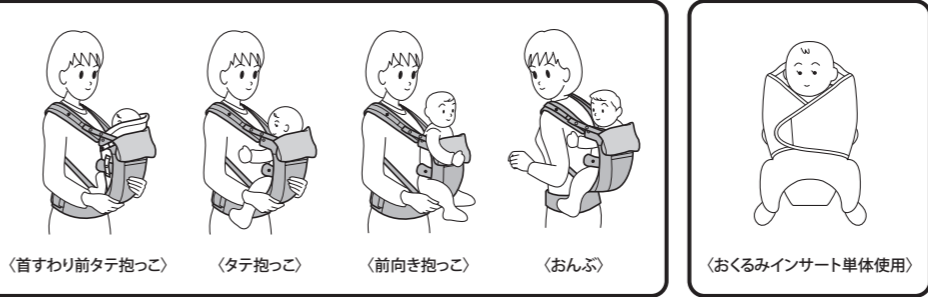
ルーポップゼロ CTS

Roopop zero CTS

・本製品はキャリートラベルシステム(CTS)専用機種種のベビーカーと組み合わせ、キャリートラベルシステムとしてお使いいただけます。
 ・ベビーカーは別売りです。
 ・キャリートラベルシステムの詳細については、キャリートラベルシステムの取扱説明書を参照ください。

取扱説明書／保証書

このたびは、GRACO製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。



※腰ベルトサイズ:74cm~118cm。 ※体型によって冬場など厚着の時には使用できない場合があります。

ご使用の前に、取扱説明書(本書)をよくお読みのうえ正しくお使いください。
 お読みになった後は、本書はいつも取り出せる場所に必ず保管してください。
 本書に記載されている以外の方法で使用しないでください。製品の機能が充分発揮できないだけでなく大変危険です。

もくじ

ご使用前に
 子守帯について／表示内容について 1
 おくるみインサートを単体で使用する場合について 1
 使用できるお子さまの月齢および体重について 1
 安全にお使いいただくために 2
 ご使用上の注意 3-4
 製品を取り出した時に 5-6
 バックルの使い方 7
 ベルトの調節方法 7

首すわり前タテ抱っこ (体重3.5kgから 体重7kgまで)
 首すわり前タテ抱っこの準備 8
 首すわり前タテ抱っこの装着方法 9-11
 おやすみカーテン 12
 首すわり前タテ抱っこの降ろし方 12
 おくるみインサート・座部クッションの取り外し 13
 おくるみインサートを単体でお使いいただく場合 14
 おくるみインサート・座部クッションの取り付け 15-16

タテ抱っこ (首がすわってから 体重15kgまで)
 タテ抱っこの準備 17
 タテ抱っこの装着方法 17
 月齢が小さい時 17

おんぶ (首がすわってから 体重15kgまで)
 おんぶの準備 18
 おんぶの装着方法 18-20
 タテ抱っこからおんぶへ 21-22
 おやすみカーテン 23
 月齢が小さい時 24
 おんぶの降ろし方 24

前向き抱っこ (ひとり座りができてから 体重13kgまで)
 前向き抱っこの準備 25
 前向き抱っこの装着方法 25-27
 前向き抱っこの降ろし方 27

その他
 Q&A 28-29
 点検について／お手入れについて 30
 SGマーク制度について 31
 保証とアフターサービスについて 32
 MEMO 33
 保証書 34

〈お願い〉

- ・本書に使用しているイラストは、操作方法や仕組みなどを分かりやすくするため、実物とは多少異なる場合があります。
- ・本書の内容について、誤りや記載もれなどお気づきの点がありましたら、弊社お客様サポートセンターまでご連絡ください。
- ・製品の品質向上のため予告なしに一部仕様変更する場合がありますのであしからずご了承ください。

製造元：グレコ・チルドレンズプロダクツ インク
 連絡先：アップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社

〒542-0082 大阪市中央区島之内1-13-13
 お客様サポートセンター TEL 0120-415-814 携帯電話からご利用の場合 (通話料お客様負担) TEL 0570-004-155
 受付時間：AM10：00～PM5：00 (土、日、祝日、弊社所定休日を除く)

子守帯について

この製品は、お子さまを抱っこやおんぶして、外気浴、買い物の時などに使用するための1人用子守帯です。
ご使用前にP5～P6「各部の名称」をご確認ください。

おくるみインサートを単体で使用する場合について

お子さまをくるんで寝かしつけや落ち着かせなどに使用するためのものです。そのままお布団などに寝かせてあげることができます。(寝冷えを防いだり、防寒を目的としたものではありません。)

使用できるお子さまの月齢および体重について




SGマーク被害者救済制度の対象は赤ラインでのご使用時です。黒ラインでのご使用時(おくるみインサート単体での使用、子守帯を首すわり前タテ抱っこの状態で生後14日から1カ月未満のお子さまの使用、子守帯をタテ抱っこの状態で24カ月を超えてから36カ月までのお子さまに使用)は対象となりません。
SGマーク被害者救済制度につきましては本書P31を参照ください。

参考月齢	0カ月	14日	1カ月	首すわり(4カ月頃)	7カ月	24カ月	36カ月	使用の条件	
おくるみインサート単体使用	● 体重2.5Kgから7Kgまで ただし首がすわるまで							首すわりまで	
子守帯	首すわり前タテ抱っこ (保護者の方を向いて抱っこする)	● 生後14日以降かつ体重3.5Kg以上から体重7Kgまで ただし首がすわるまで							首すわりまで
	タテ抱っこ	● 首がすわってから体重15Kgまで							15kgまで
	前向き抱っこ	● ひとり座りができてから体重13Kgまで							13kgまで
	おんぶ	● 首がすわってから体重15Kgまで							15kgまで

※お子さまの発育により、同じ月齢でも体格や体重には個人差があります。また、お子さまの衣類の厚みや体格によっては使用できない場合があります。
※使用者の腰ベルトサイズは74cm～118cmまでご使用いただけます。

表示内容について

「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の切迫度の大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。
表示	表示の内容
	製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止しています。

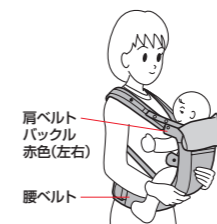
安全にお使いいただくために

- ご使用の際は、バックルを必ずとめてください。
- ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節してください。
- 脚部を露出したお子さまに使用された場合、肌に子守帯の跡がついたり、まれに肌がこすれて赤くなることがあります。その場合は、肌の露出部を覆う服を着せるか、露出部にタオルなどを当てて、子守帯に直接触れないようにしてください。

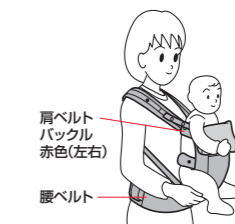
首すわり前タテ抱っこ



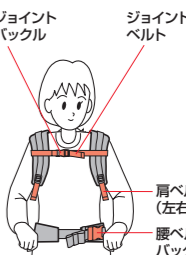
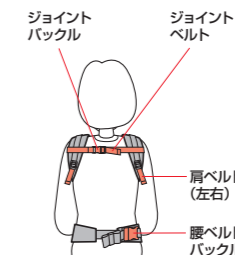
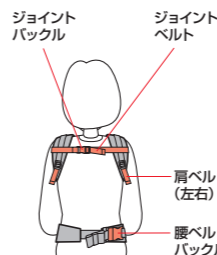
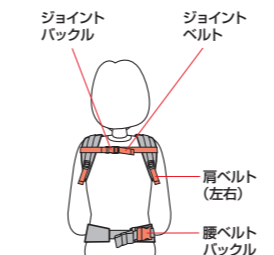
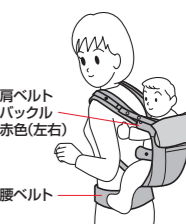
タテ抱っこ



前向き抱っこ



おんぶ




警告 ご使用の際は、バックルを必ずとめる。
お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節する。
お子さまと装着者の間にすき間がありすぎると、お子さまの予期せぬ動きに対応できず落下し、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

注意 タテ抱きで生後1カ月から使用できるものにあつては、乳幼児は首がすわるまでは使用者と向き合う姿勢で装着してください。

ご使用上の注意

ここに記載した内容は非常に重要です。よくお読みになり、必ず守ってください。

警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。				
肩バックル、腰バックル、ジョイントバックルを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。 	肩ベルト、腰ベルト、ジョイントベルトは必ず調節し、緩めた状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。 	走ったり、跳んだり、前かがみなどの無理な姿勢をとらない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。 	首すわり前タテ抱っこ使用時は、おくるみインサートのみで使用しない。座部クッションが本体に取り付けられていることを確認してください。お子さまが体調を損なうおそれがあります。 	おくるみインサートを単体でご使用いたく時 首がすわったお子さまにはおくるみインサートを使用しない。うつぶせになると窒息のおそれがあります。 
タテ抱っこ、おんぶでは、体重15kgを超えるお子さまに使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。 	前向き抱っこでは、体重13kgを超えるお子さまに使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。 	首のすわらないお子さまに使用する際はおくるみインサートと座部クッションを正しく装着して使用してください。正しく装着されていないと、お子さまが体調を損なうおそれがあります。 	授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。首すわり前タテ抱っこ使用時は、連続1時間以上使用しない。タテ抱っこ、おんぶ使用時は、連続2時間以上使用しない。お子さま、使用者が体調を損なうおそれがあります。 	

警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- ・お子さまを乗せる時や降ろす時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ・おんぶや抱っこをする時や降ろす時は低い姿勢で行う。身体を傾ける際に落下しないように気を付け、手で支える。また頭が下向きにならないように膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。お子さまが落下するおそれがあります。
- ・装着する際は、お子さまの落下に注意し正しく装着する。乳幼児が開口部から落下するおそれがあります。
- ・腰ベルトと装着者の間に、お子さまの足と座部クッションを挟まないようにしてください。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。
- ・お子さまが眠って後ろに反り返る場合は使用を中止してください。お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・首すわり前タテ抱っこ使用時は、子守帯本体とおくるみインサート、座部クッションを正しく装着する。お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ベルトの先端の返し縫い部をほどこいたり、切り落とした後に使用しない。お子さまが落下するおそれがあります。
- ・バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、きずがある状態では使用しない。お子さまが落下するおそれがあります。
- ・梱包袋（パッケージ）はお子さまがかぶらないよう放置しない。窒息する可能性があります。
- ・生後4カ月未満の乳児は、保護者の身体に顔を強く押しあてた状態にしない。本製品内で窒息するおそれがあります。
- ・乳幼児を保護者の身体に強く縛り付けた状態にしない。乳幼児の頭部を動かす余裕があるように装着する。本製品内で窒息するおそれがあります。
- ・お子さまの顔が強く使用者の胸につき気道をふさぐ状態で使用しない。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
- ・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
- ・首すわり前タテ抱っこ使用時は、お子さまの頭がおくるみインサートから出た状態で使用しない。お子さまの頭が支えられないおそれがあります。
- ・早産時及び呼吸器疾患等のある乳児は、生後14日以降からでも使用を控えてください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・面ファスナーは必ずとめた状態を確認し、ご使用ください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・おくるみインサートを子守帯（本体）から外して使用する時は、おくるみ以外の目的で使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・本製品を改造（染色など）しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・おくるみインサートを他の子守帯に使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・バックルは使用していない時も外したままにしない。お子さまがバックルに指を入れて、けがをするおそれがあります。
- ・飛行機、車、自転車、バイクでは使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・料理など家事をする際は、お子さまの様子に注意する。家事に気をとられ、お子さまのやけどなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

- ・装着者およびお子さまの体調がすぐれない時や、使用中に痛みや不快を感じた時は直ちに使用を中止してください。
- ・タテ抱っこでは足元が見えにくくなる場合がありますので歩行には充分注意してください。
- ・暖房器具の近くなど高温になる場所に放置しない。
- ・直射日光のあたる場所に保管しない。変色や劣化が早まります。
- ・洗濯する際は面ファスナーをとめてください。面ファスナーや本製品の生地および他の洗濯物がいたむおそれがあります。
- ・その他、荷物などの運搬や、お子さまを抱っこ、おんぶする以外の目的での使用をしない。

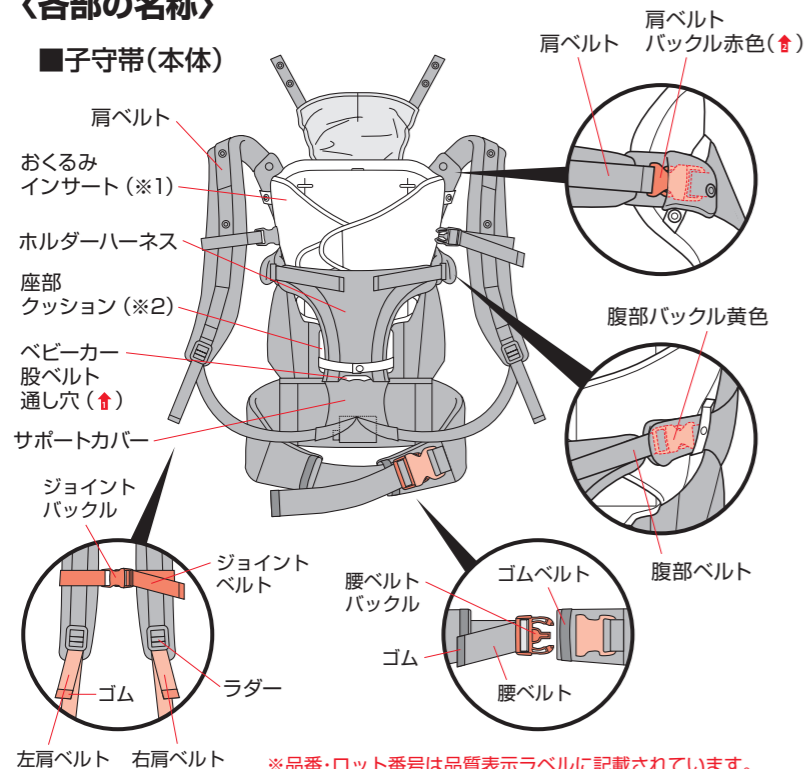
製品を取り出した時に

※おやすみカーテンは箱から取り出した状態では二つ折りにセットされています。

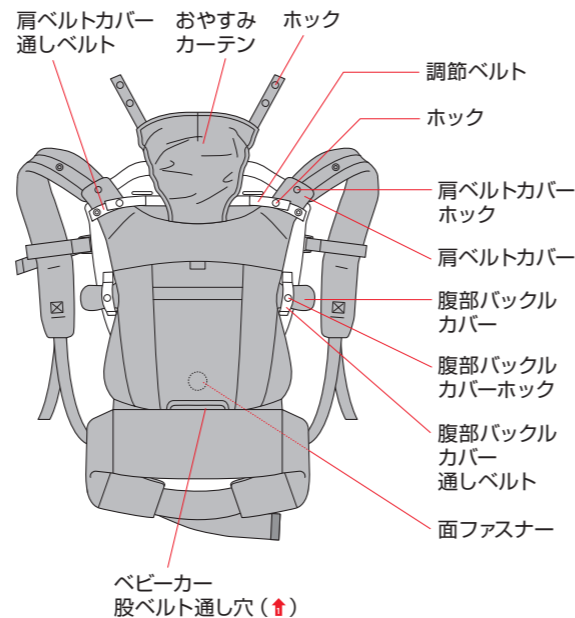
- ・製品を取り出した後は、部品が揃っているか、破損がないかを確認してください。
- ・欠品や破損の際は、弊社お客様サポートセンターまですみやかにご連絡ください。

各部の名称

■子守帯(本体)

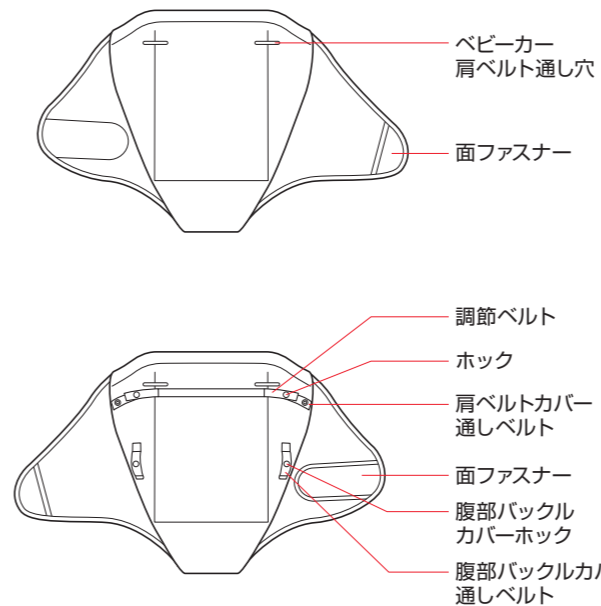


※品番・ロット番号は品質表示ラベルに記載されています。
品質表示ラベルは、腰ベルト裏側に縫い付けられています。

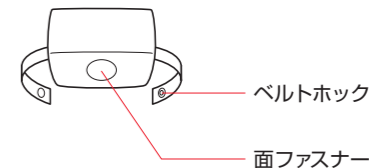


(↑)(↑)の表示は、キャリアトラベルシステムで使用する場合にベビーカーと装着するための目印です。詳しくは、付属品のキャリアトラベルシステムの取扱説明書をお読みください。

(※1)おくるみインサート



(※2)座部クッション



〈付属品〉 おくるみインサート、座部クッションは、箱から取り出した状態では、本体にセットされています。



取扱説明書／保証書
(本書)

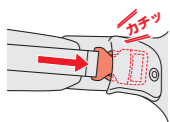


キャリアトラベルシステム
取扱説明書

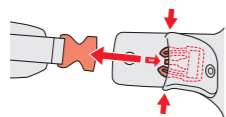
バックルの使い方

〈肩ベルトバックル赤色〉

とめ方



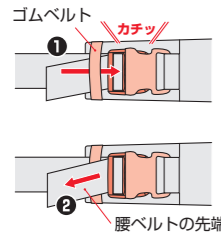
外し方



〈腰ベルトバックル〉

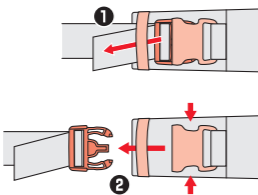
とめ方

- 腰ベルトバックルをゴムベルトに通し、とめる。
- 腰ベルトの先端をゴムベルトの上側に引き出す。



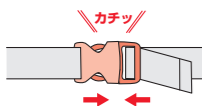
外し方

- 腰ベルトの先端をゴムベルトに通す。
- 腰ベルトバックルを外し、ゴムベルトから抜き取る。

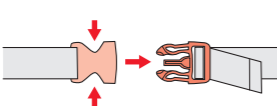


〈ジョイントバックル・腹部バックル黄色〉

とめ方



外し方



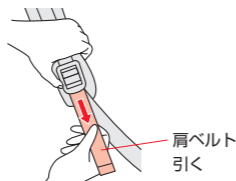
ベルトの調節方法



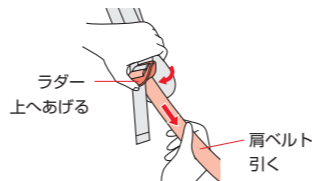
・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節する。
 ・お子さまと装着者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、落下し思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

〈肩ベルト〉

短くする時

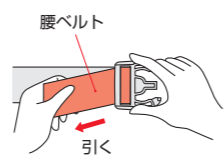


長くする時

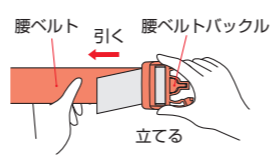


〈腰ベルト〉

短くする時

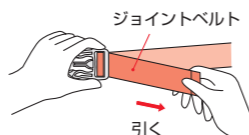


長くする時

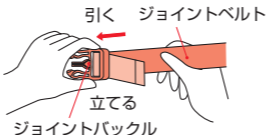


〈ジョイントベルト・腹部ベルト〉

短くする時

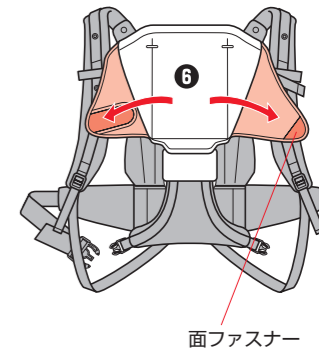
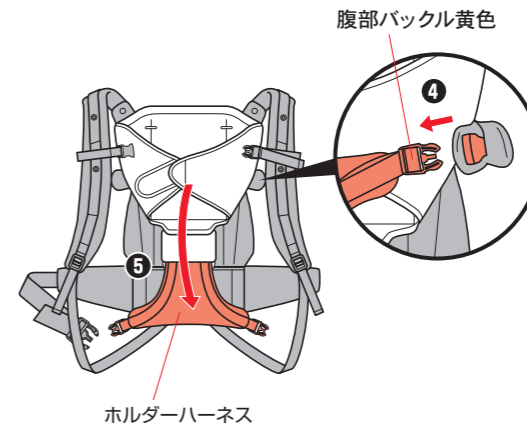
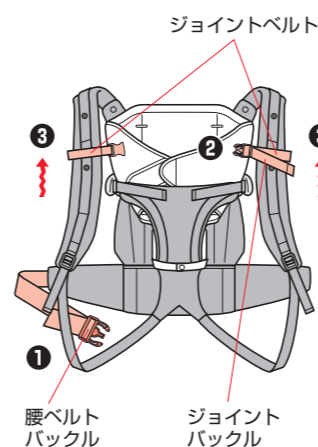


長くする時



首すわり前タテ抱っこの準備

- 腰ベルトバックルを外す。
- ジョイントバックルを外す。
- ジョイントベルトを上によらず。
- 左右の腹部バックル黄色を外す。
- ホルダーハーネスを広げる。
- おくるみインサートの面ファスナーを外す。



アドバイス

・ジョイントベルトを上によらずと、後で(P106)首の後ろでジョイントバックルがとめやすくなります。



・お子さまを乗せる前に各部のベルトの長さを使用者の身体に合わせて調節する。お子さまと使用者の間に隙間ができて思わぬ事故やけがをするおそれがあります。
 ・首すわり前タテ抱っこでは、おくるみインサートと座部クッションを必ず使用する。お子さまが体調を損なうおそれがあります。

首すわり前タテ抱っこの装着方法

(つづく)

①安全な場所に子守帯を広げ、おくるみインサートにお子さまの足がM字になるように座部クッションをまたいで乗せる。

②お子さまの腕を包み込み、おくるみインサートの面ファスナーをとめる。

③ホルダーハーネスをお子さまのおなかにかぶせ、左右の腹部バックル黄色をねじれないよう「カチッ」と音がするまで差し込む。

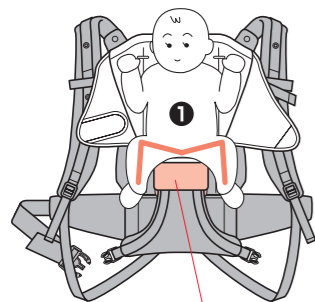
④左右の腹部ベルトの長さを調節する。(P7参照)

⑤お子さまと子守帯を同時に抱き上げ、左右の肩ベルトをかける。

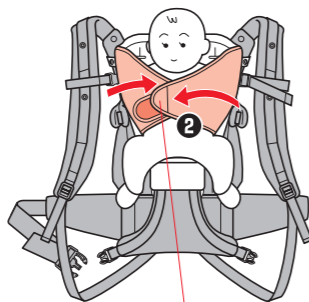
⑥首の後ろでジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。(P7参照)

⑦腰ベルトバックルをゴムベルトに通して、「カチッ」と音がするまで差し込む。

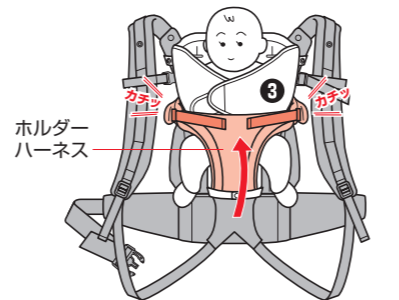
⑧腰ベルトの長さを調節し(P7参照)、両手であまったベルトをゴムでまとめる。



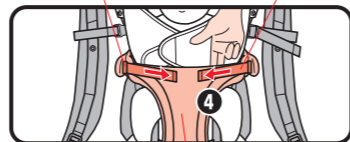
座部クッション



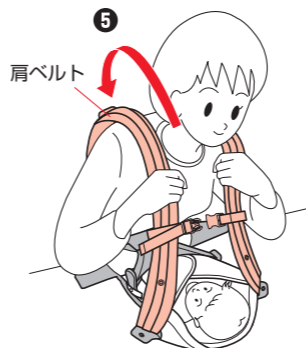
面ファスナー



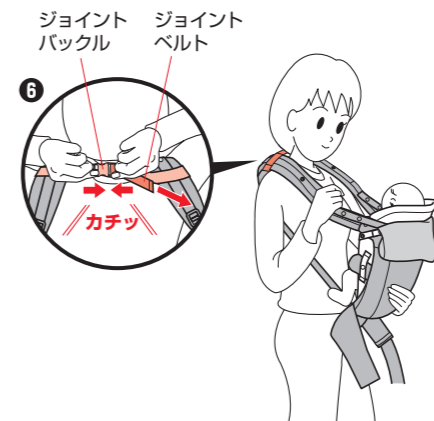
ホルダーハーネス 腹部バックル黄色 腹部ベルト



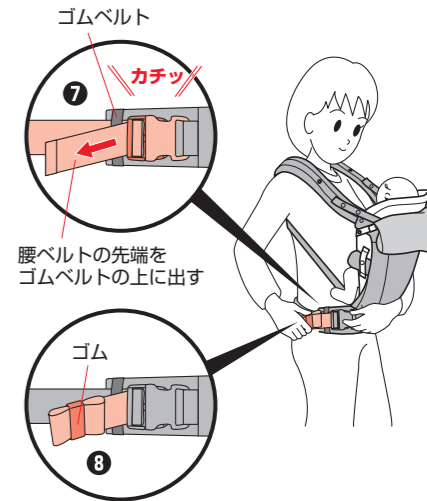
ホルダーハーネス



肩ベルト



ジョイントバックル ジョイントベルト



ゴムベルト

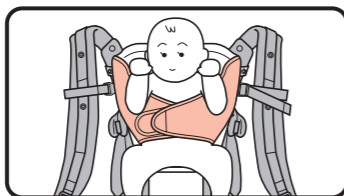
カチッ

腰ベルトの先端をゴムベルトの上に出す

ゴム

カチッ

アドバイス ・腕を包み込み、カバーをきつめにするをおすすめします。ただし、お子さまの腕を出しても使用できます。



アドバイス

・お子さまのお腹周りは、大人の指が2〜3本入る程度に腹部ベルトを調節します。

警告 ・ホルダーハーネスを必ず取り付ける。お子さまが落下するおそれがあります。

アドバイス

・腰ベルトバックルを取り付けてから、肩ベルトを左右の肩にかける手順でも装着できます。

警告

・首すわり前タテ抱っこでは、おくるみインサートと座部クッションを必ずご使用ください。お子さまが体調を損なうおそれがあります。
 ・ご使用の際は、バックルを必ずとめてください。とめないで使用するとお子さまが落下するおそれがあります。
 ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節してください。お子さまと装着者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、落下するおそれがあります。
 ・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

警告

・腰ベルトと装着者の間に、お子さまの足と座部クッションを挟まないようにしてください。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。



首すわり前タテ抱っこ

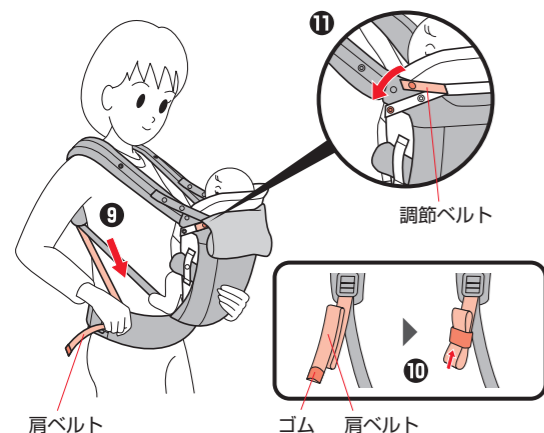
体重 3.5 kg ~ 体重 7 kg

首すわり前タテ抱っこ

体重 3.5 kg ~ 体重 7 kg

首すわり前タテ抱っこの装着方法 (つづき)

- ⑨左右の肩ベルトを調節し(P7参照)、お子さまの位置を調える。
- ⑩両手であまったベルトをゴムでまとめる。
- ⑪お子さまの首が不安定な場合、おくるみインサートの調節ベルトを調節する。



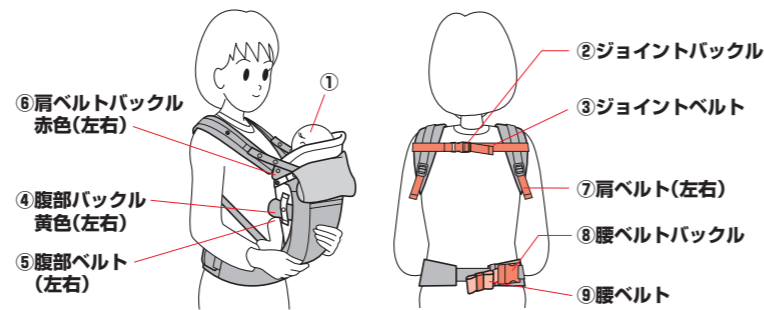
アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。
 ・一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。
 ・抱っこで前かがむ時は、お子さまが落下しないように気をつけ、必ず手でささえてください。
 ・おんぶや抱っこをする時や、降ろす時は低い姿勢で行ってください。また、低い姿勢ではお子さまの頭が下向きにならないよう膝をまげて腰を落としましょう。

- ⑫鏡などに姿を映して、抱っこの状態を確認してください。
 正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

首すわり前タテ抱っこの確認

- ①お子さまの頭部が装着者の視界の妨げにならない
- ②ジョイントバックルが確実にとまっている
- ③ジョイントベルトを調節している
- ④腹部バックル黄色が確実にとまっている
- ⑤腹部ベルトを調節している
- ⑥肩ベルトバックル赤色が確実にとまっている
- ⑦肩ベルトを調節している
- ⑧腰ベルトバックルが確実にとまっている
- ⑨腰ベルトを調節している



⚠️ 注意

- ・鏡に映して、抱っこの状態を確認する。
 正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・首すわり前タテ抱っこ使用時は、連続1時間以上または、授乳後30分以内は使用しない。
 お子さま、使用者が体調を損なうおそれがあります。
- ・腰ベルトと装着者の間に、お子さまの足と座部クッションを挟まないようにしてください。
 お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。

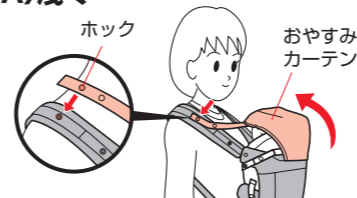
おやすみカーテン ※おやすみカーテンは箱から取り出した状態では二つ折りにセットされています。

- ・お子さまが寝た時などに使用すると首が安定します。
- ・風よけや日差しよけにもなります。
- ・おやすみカーテン使用時に、お子さまが動いて、頭からずれたりした場合は、正しく付けなおしてください。

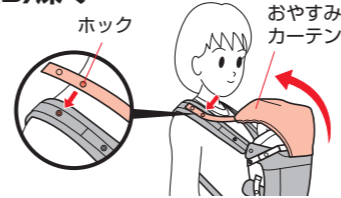
〈調節方法〉

・お子さまの成長に合わせて〈A〉浅く、〈B〉深く、どちらかで調節してください。

〈A〉浅く



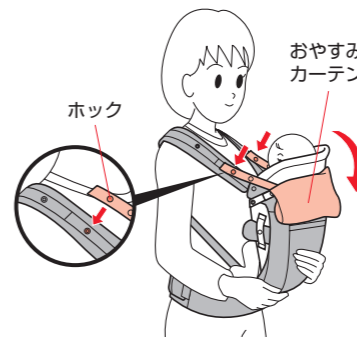
〈B〉深く



⚠️ 警告
 ・おやすみカーテンを使用する際は、特にお子さまの様子に注意する。
 気道がふさがると窒息するおそれがあります。

〈使用しない時〉

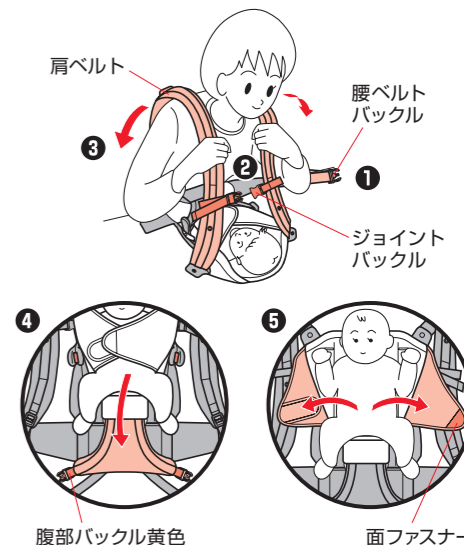
・ホック位置を下げて付け、おやすみカーテンを二つ折りにする。



⚠️ 警告
 ・お子さまが眠って後ろに反り返る場合は使用を中止してください。お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

首すわり前タテ抱っこの降ろし方

- ①腰ベルトバックルを外す。
- ②お子さまを安全な場所に寝かせ、ジョイントバックルを外す。
- ③左右の肩ベルトを肩からはずす。
- ④左右の腹部バックル黄色を外す。
- ⑤おくるみインサートの面ファスナーを外し、お子さまを降ろす。



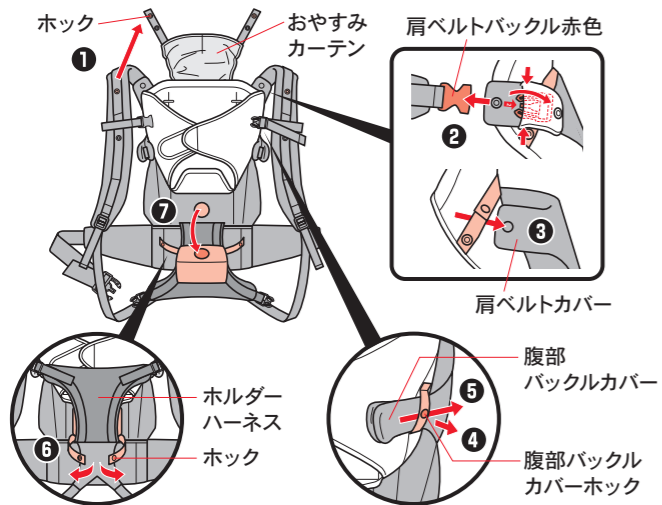
⚠️ 警告
 ・お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。
 不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

おくるみインサート・座部クッションの取り外し ※出荷時はおくるみインサートと座部クッションがセットされています。

〈お子さまを乗せていない場合〉

- ①左右のおやすみカーテンのホックを外す。
- ②左右の肩ベルトバックル赤色を外す。
- ③左右の肩ベルトカバーを肩ベルトカバー通しベルトから抜く。
- ④左右の腹部バックルカバーホックを外す。
- ⑤左右の腹部バックルカバーを腹部バックルカバー通しベルトから抜く。
- ⑥座部クッションのホックをホルダーハーネスから外す。
- ⑦座部クッションの面ファスナーを外し、取り外す。

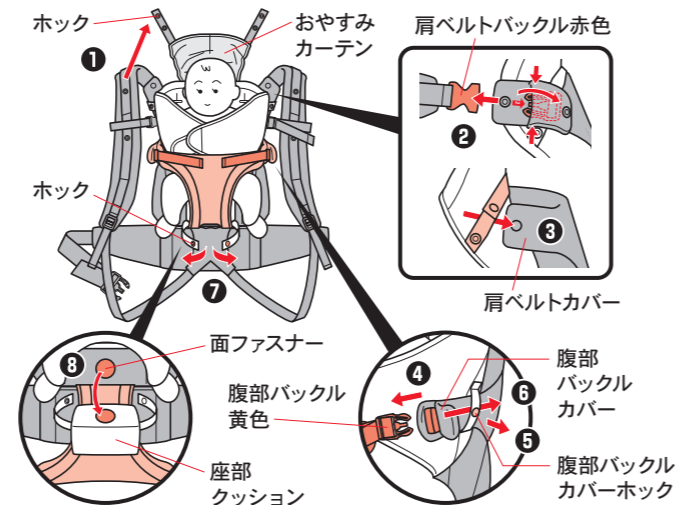
警告 ・お子さまを乗せ降ろしする時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所では、お子さまが落下するおそれがあります。



〈お子さまを乗せている場合〉 ※安全な場所に降ろしてから行う。

- ①左右のおやすみカーテンのホックを外す。
- ②左右の肩ベルトバックル赤色を外す。
- ③左右の肩ベルトカバーを肩ベルトカバー通しベルトから抜く。
- ④左右の腹部バックル黄色を外す。
- ⑤左右の腹部バックルカバーホックを外す。
- ⑥左右の腹部バックルカバーを腹部バックルカバー通しベルトから抜く。
- ⑦座部クッションのホックをホルダーハーネスから外す。
- ⑧座部クッションの面ファスナーを外し、取り外す。

※お子さまをおくるみインサートごと子守帯から降ろし、そのままお布団などに寝かせてあげることができます。(P14参照)



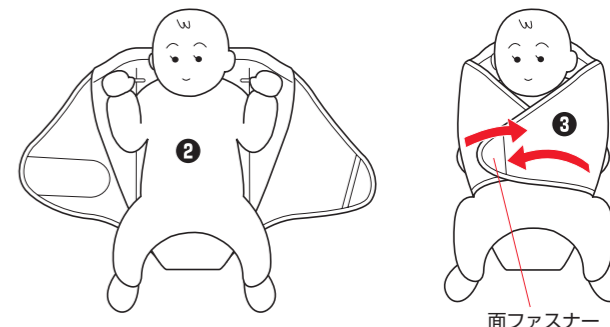
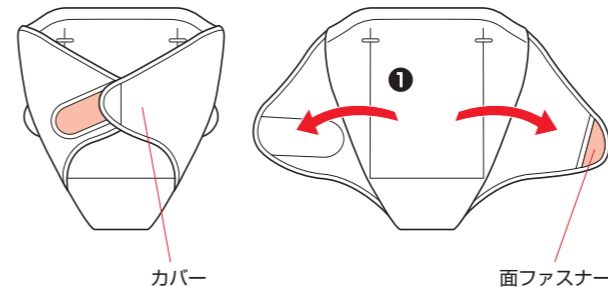
おくるみインサートを単体でお使いいただく場合

・お子さまを寝かしつけたり、落ち着かせるためにお使いいただけます。そのままお布団などに寝かせてあげることができます。

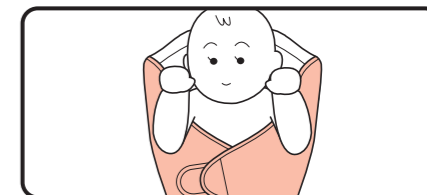
〈使い方〉

- ①カバーの面ファスナーを外し、ひろげる。

- ②おくるみインサートにお子さまをのせる。
- ③お子さまの腕を包み込み、カバーの面ファスナーをとめる。



アドバイス ・腕を包み込み、カバーをきつめにする
ことをおすすめします。ただし、お
子さまの腕を出しても使用できます。



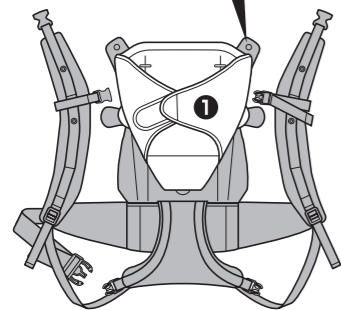
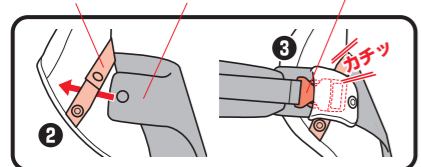
警告 ・首がすわったお子さまにはおくるみインサートを使用しない。うつぶせになると窒息のおそれがあります。
・おくるみインサートを単体で使用する時は、お子さまを拘束する必要がある製品には乗せない。お子さまを適切に
拘束できません。
・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。

おくるみインサート・座部クッションの取り付け ※出荷時はおくるみインサートと座部クッションがセットされています。

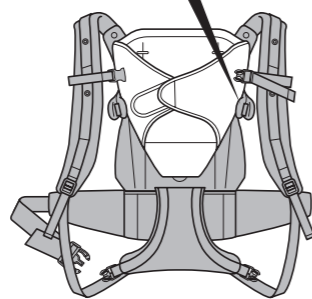
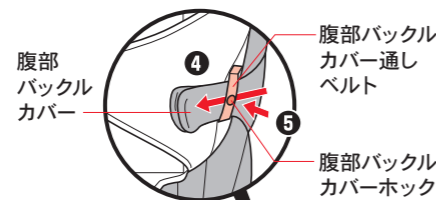
- ・首すわり前タテ抱っこで使用する際は、必ずおくるみインサートと座部クッションを取り付けて使用する。
- ・タテ抱っこ、前向き抱っこ、おんぶで使用する際は、おくるみインサートと座部クッションは取り外してください。

- ①バックルを全て外した子守帯におくるみインサートをのせる。
- ②左右の肩ベルトカバーをおくるみインサートの肩ベルトカバーを通しベルトに通す。
- ③左右の肩ベルトバックル赤色をねじれないよう「カチッ」と音がするまで差し込む。

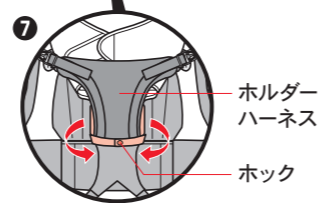
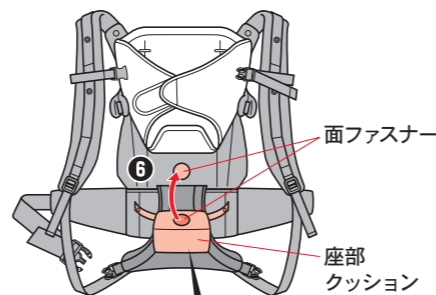
肩ベルトカバー 肩ベルト 肩ベルトバックル
通しベルト カバー 赤色



- ④左右の腹部バックルカバーをおくるみインサートの腹部バックルカバーを通しベルトに通す。
- ⑤左右の腹部バックルカバーホックをとめる。



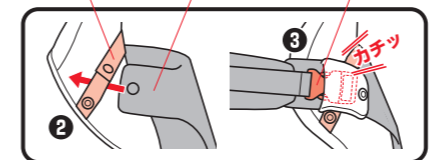
- ⑥座部クッションの面ファスナーをとめる。
- ⑦座部クッションのベルトホックをホルダーハーネスに巻き付け、ホックをとめる。



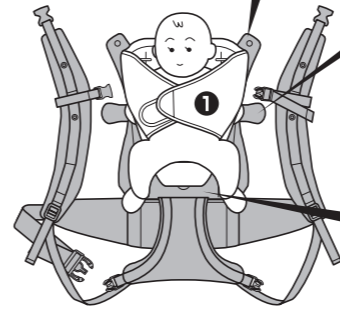
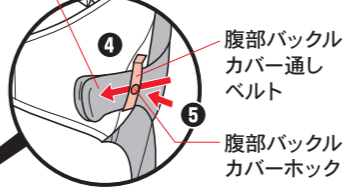
〈おくるみインサート単体で使用のお子さまを乗せる場合〉

- ①バックルを全て外した子守帯におくるみインサートをのせる。
- ②左右の肩ベルトカバーをおくるみインサートの肩ベルトカバーを通しベルトに通す。
- ③左右の肩ベルトバックル赤色をねじれないよう「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ④左右の腹部バックルカバーをおくるみインサートの腹部バックルカバーを通しベルトに通す。
- ⑤左右の腹部バックルカバーホックをとめる。
- ⑥座部クッションと本体を面ファスナーでとめる。
- ⑦ホルダーハーネスをお子さまのおなかにかぶせ、座部クッションのベルトホックをホルダーハーネスに巻き付け、ホックをとめる。

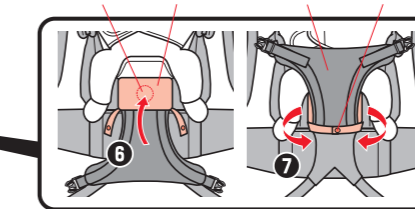
肩ベルトカバー 肩ベルト 肩ベルトバックル
通しベルト カバー 赤色



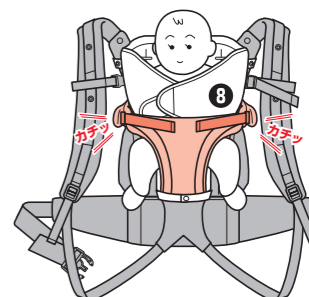
腹部バックル
カバー



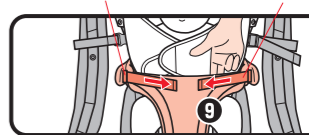
座部 面ファスナー
クッション



- ⑧左右の腹部バックル黄色をねじれないよう「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ⑨左右の腹部ベルトの長さを調節する。(P7参照)



腹部バックル黄色 腹部ベルト

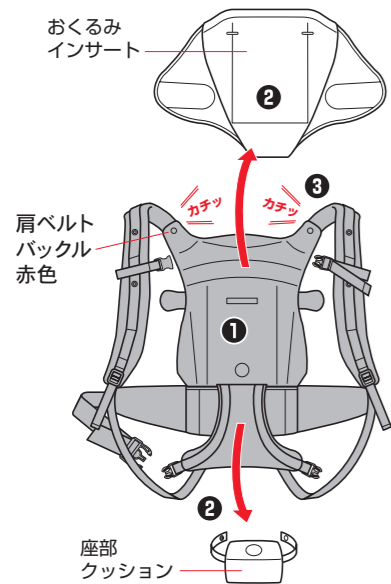


アドバイス

・お子さまのお腹周りは、大人の指が2~3本入る程度に腹部ベルトを調節します。

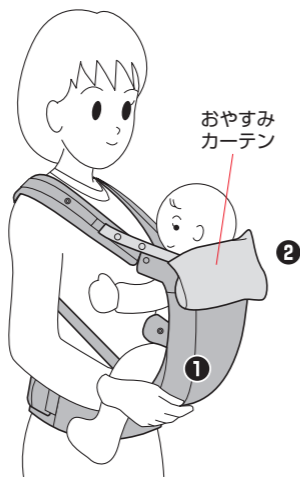
タテ抱っこの準備

- ①P8「首すわり前タテ抱っこの準備」を参照して、子守帯を広げる。
- ②P13「おくるみインサート・座部クッションの取り外し」を参照して、おくるみインサートと座部クッションを取り外す。
- ③左右の肩ベルトバックル赤色をねじれないよう「カチッ」と音がするまで差し込む。



タテ抱っこの装着方法

- ①P9～11「首すわり前タテ抱っこの装着方法」を参照して子守帯をタテ抱っこに装着する。
- ②P12「おやすみカーテン」を参照して、おやすみカーテンの調節をする。

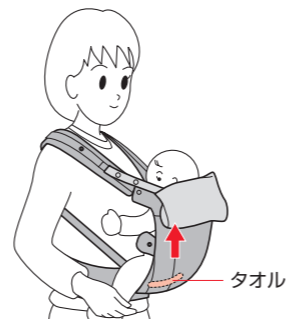


月齢が小さい時

・お子さまの月齢が小さいうちは、腰ベルトを高い位置でとめると、より安定します。

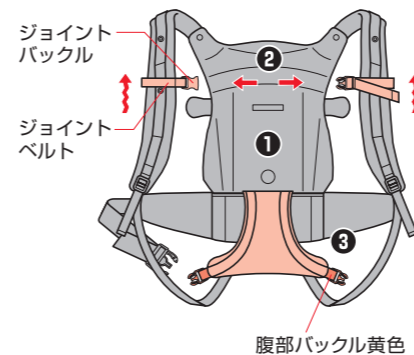


・お子さまのお尻の下にタオルを入れ、高さを調節してください。



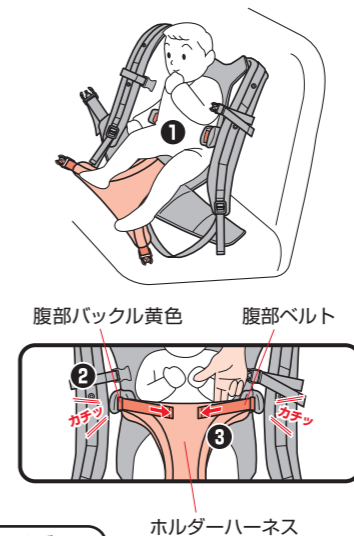
おんぶの準備

- ①おくるみインサートと座部クッションが取り外されていることを確認する。(P13参照)
- ②肩ベルトにあるジョイントバックルを外し、ジョイントベルトを上にはずらす。
- ③左右の腹部バックル黄色を外す。



おんぶの装着方法

- ①安全な場所に子守帯を広げ、お子さまを座らせる。
- ②左右の腹部バックル黄色をねじれないよう「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ③左右の腹部ベルトの長さを調節する。(P7参照)

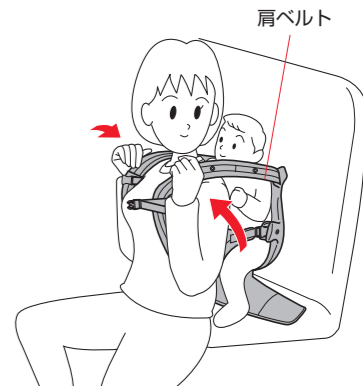


アドバイス

・お子さまのお腹周りは、大人の指が2～3本入る程度に腹部ベルトを調節します。

警告 ・ホルダーハーネスを必ず取り付ける。
落下のおそれがあります。

- ④左右の肩ベルトをかける。



警告

・お子さまをおんぶする時は、お子さまの動きに注意し、必ず安全な場所で行う。他の人に手伝わってもらうとより安全です。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
・お子さまの状態に注意しながら使用する。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

(つづく)

首すわり～体重15kg

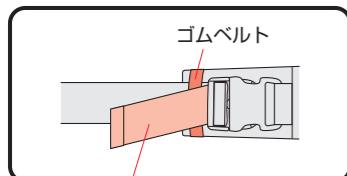
おんぶ

おんぶの装着方法 (つづき)

- ⑤前かがみの体勢でお子さまを背負い、腰ベルトバックルをゴムベルトに通し、とめる。

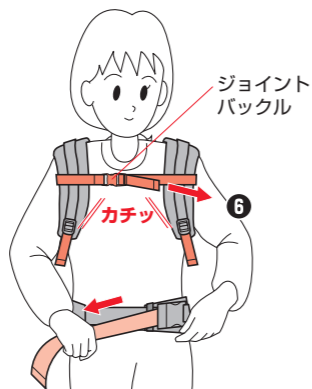


腰ベルトバックル



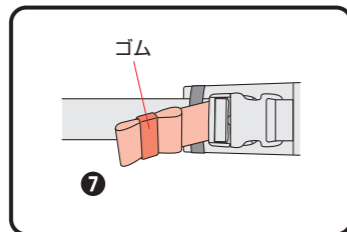
腰ベルトの先端をゴムベルトの上に出す

- ⑥ジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。(P7参照)
⑦腰ベルトを調節して(P7参照)、あまったベルトをゴムでまとめる。



ジョイントバックル

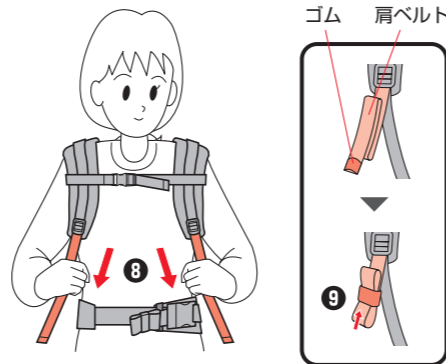
⑥



ゴム

⑦

- ⑧左右の肩ベルトを調節する。(P7参照)
⑨ベルトをゴムでまとめる。



ゴム 肩ベルト

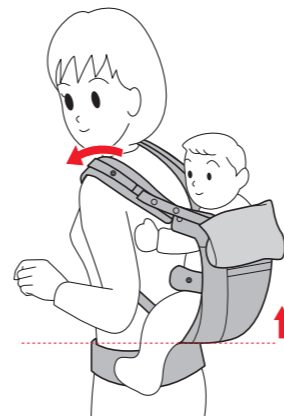
⑨

アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。
・一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。

⚠️ **警告**
・おんぶや抱っこをする時や降ろす時は低い姿勢で行う。低い姿勢ではお子さまの頭が下向きにならないよう膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。お子さまが落下するおそれがあります。

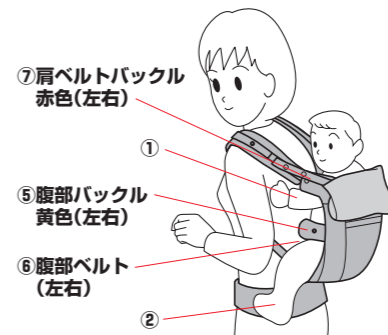
- ⑩お子さまのお尻の位置が腰ベルトより高くなるように調節する。
(左右の肩ベルトを調節したり(P7参照)、腰ベルトの位置を下げる。)



- ⑪鏡などに姿を映して、おんぶの状態を確認してください。正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

おんぶの確認

- ①お子さまの両腕が出ている
- ②お子さまの両足が出ている
- ③ジョイントバックルが確実にとまっている
- ④ジョイントベルトを調節している
- ⑤腹部バックル黄色が確実にとまっている
- ⑥腹部ベルトを調節している
- ⑦肩ベルトバックル赤色が確実にとまっている
- ⑧肩ベルトを調節している
- ⑨腰ベルトバックルが確実にとまっている
- ⑩腰ベルトを調節している



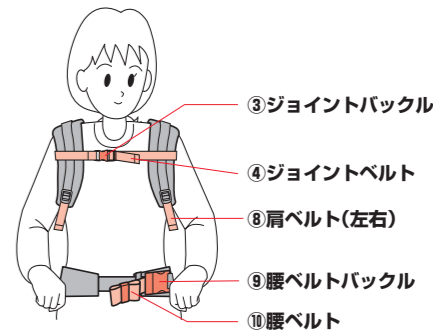
⑦肩ベルトバックル赤色(左右)

⑤腹部バックル黄色(左右)

⑥腹部ベルト(左右)

①

②



③ジョイントバックル

④ジョイントベルト

⑧肩ベルト(左右)

⑨腰ベルトバックル

⑩腰ベルト

⚠️ **警告**
・鏡に映して、おんぶの状態を確認する。正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠️ **注意**
・装着者が痛みや不快を感じた場合は使用を中止してください。特に、授乳期のお母さまは、乳房を圧迫するおそれがあります。

タテ抱っこからおんぶへ

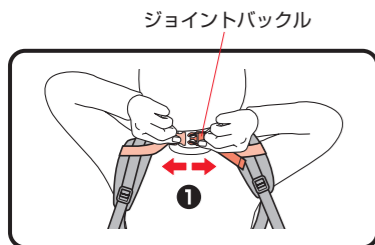
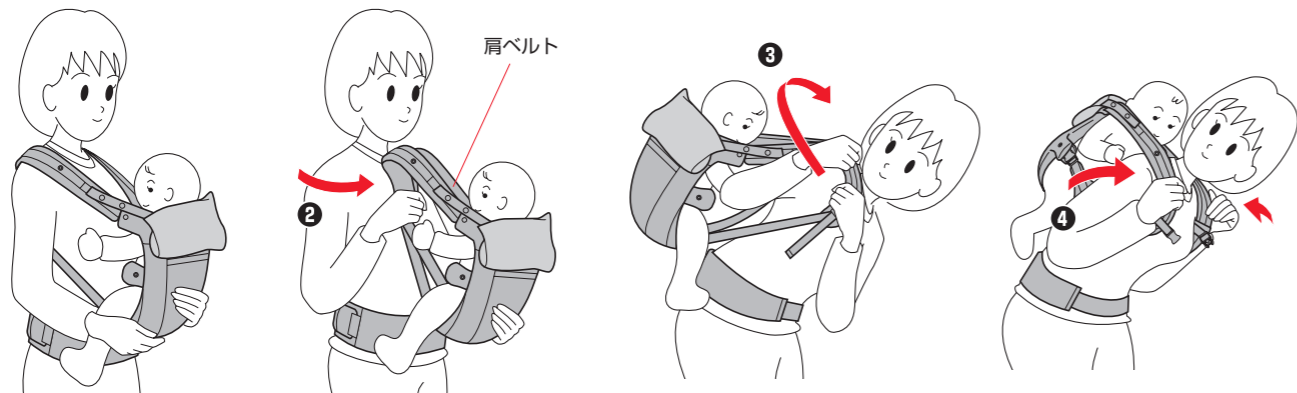
- ①タテ抱っこの状態でジョイントバックルを外す。
- ②左右の肩ベルトを肩からはずし、まとめる。

- ③肩ベルトをしっかり持ち、前かがみの姿勢で、お子さまを支えて背中側にまわす。
- ④左右の肩ベルトをかける。

- ⑤ジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。(P7参照)

- ⑥左右の肩ベルトを調節し(P7参照)、お子さまの位置を調える。
- ⑦ベルトをゴムでまとめる。

- ⑧鏡などに姿を映して、おんぶの状態を確認してください。(P20参照)
正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

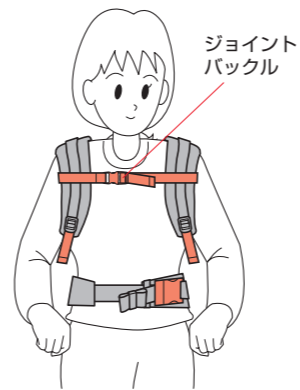


警告

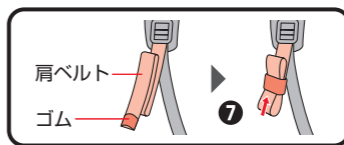
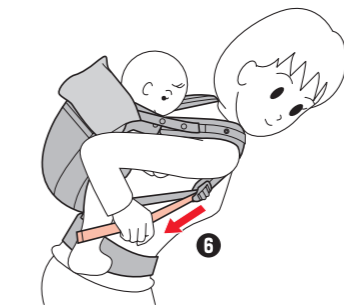
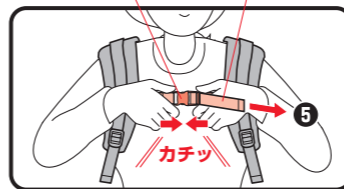
- ・抱っこからおんぶへ変える時は、お子さまの動きに注意し、必ず安全な場所で行う。他の人に手伝ってもらったより安全です。
- ・不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

警告

- ・お子さまの状態に注意しながら使用する。
- ・気道がふさがると窒息するおそれがあります。



ジョイントバックル ジョイントベルト



アドバイス

- ・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。
- ・一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。

警告

- ・鏡に映して、おんぶの状態を確認する。
- ・正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・肩ベルトと装着者の間に、お子さまの足と座部クッションを挟まないようにしてください。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。



おやすみカーテン

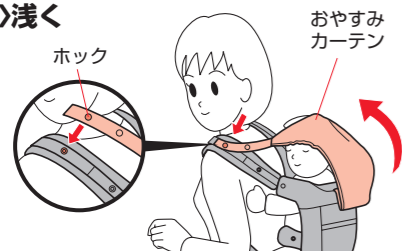
※おやすみカーテンは箱から取り出した状態では二つ折りにセットされています。

- ・おさまが寝た時などに使用すると首が安定します。
- ・風よけや日差しよけにもなります。

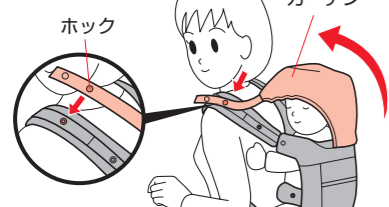
〈調節方法〉

- ・おさまの成長に合わせて〈A〉浅く、〈B〉深く、どちらかで調節してください。

〈A〉浅く



〈B〉深く



アドバイス

・鏡などに姿を映して、おやすみカーテンがおさまの頭を覆っていることを確認してください。
正しくできていない場合は、もう一度調節しなおしてください。



・おやすみカーテンを使用する際は、特におさまの様子に注意する。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

〈使用しない時〉

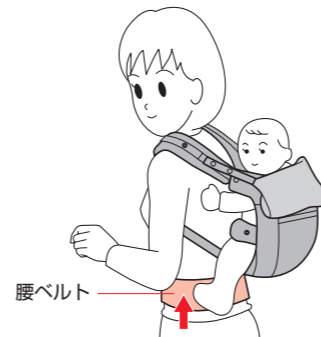
- ・ホック位置を下げて付け、おやすみカーテンを二つ折りにする。



・おさまが眠って後ろに振り返る場合はおんぶの使用を中止してください。
おさまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

月齢が小さい時

- ・おさまの月齢が小さいうちは、腰ベルトを高い位置でとめると、より安定します。

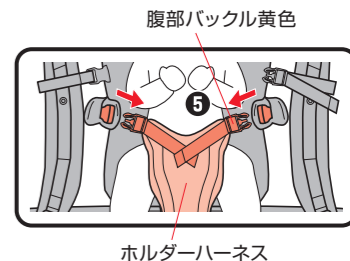
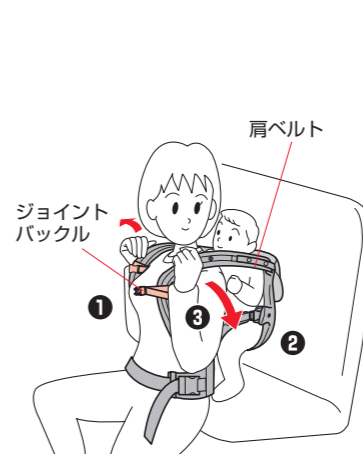


- ・おさまのお尻の下にタオルを入れ、高さを調節してください。



おんぶの降ろし方

- ① ジョイントバックルを外す。
- ② おさまをゆっくり降ろす。
- ③ 左右の肩ベルトをはずす。
- ④ 腰ベルトバックルを外す。
- ⑤ 左右の腹部バックル黄色を外す。



アドバイス

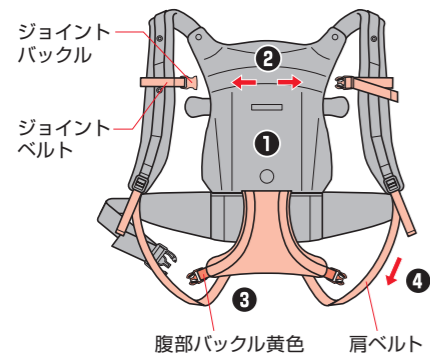
・イスが無い場合は、おんぶからタテ抱っこに戻して (P21 ④→⑤→②参照)、安全な場所におさまを降ろしてください。



・おさまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。
他の人に手伝ってもらおうとより安全です。
不安定な場所などでは、おさまが落下するおそれがあります。

前向き抱っこの準備

- ① おくるみインサートと座部クッションが取り外されていることを確認する。(P13参照)
- ② ジョイントバックルを外す。
- ③ 左右の腹部バックル黄色を外す。
- ④ 左右の肩ベルトを長めに調節する。(P7参照)

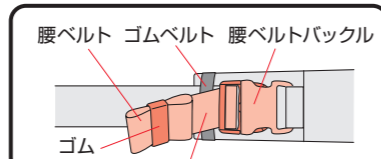
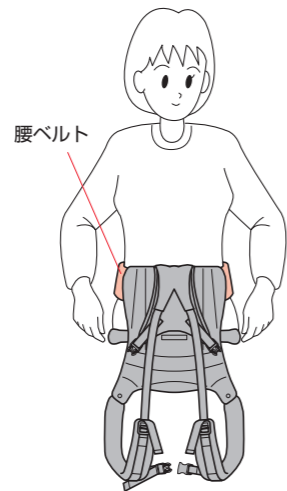


アドバイス

・肩ベルトを長めに調節すると、お子さまを乗せやすくなります。

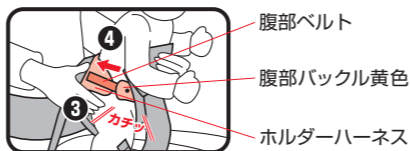
前向き抱っこの装着方法

- ① P10「首すわり前タテ抱っこの装着方法⑦、⑧」を参照して腰ベルトバックルをとめる。



腰ベルトの先端をゴムベルトの上に出す

- ② 安全な場所に座り、本体とホルダーハーネスの間にお子さまの体を前向きにして乗せる。
- ③ 左右の腹部バックル黄色を「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ④ 左右の腹部ベルトの長さを調節する。(P7参照)



・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
・ホルダーハーネスを必ず取り付ける。
落下のおそれがあります。

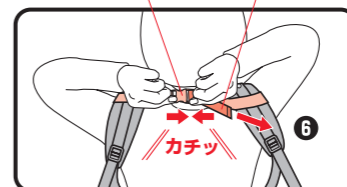
- ⑤ 左右の肩ベルトを両肩にかける。



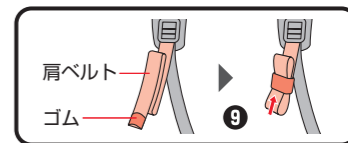
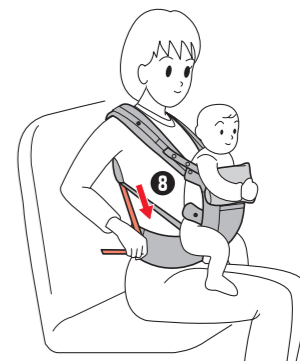
アドバイス

・お子さまの腕は肩ベルトの外側でも内側でも構いません。ただし外側に出している時に、お子さまが前のめりになる場合は、肩ベルトの内側に腕を入れてください。

- ⑥ 首の後ろでジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。(P7参照)
- ⑦ お子さまの足が外に出ていることを確認する。



- ⑧ 左右の肩ベルトを調節し(P7参照)、お子さまの位置を調える。
- ⑨ 両手であまったベルトをゴムでまとめる。



アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。
・前向き抱っこの使用は、お子さまが前のめりになったりして負担がかかる場合もあるので、30分程度を目安としてください。
・一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。

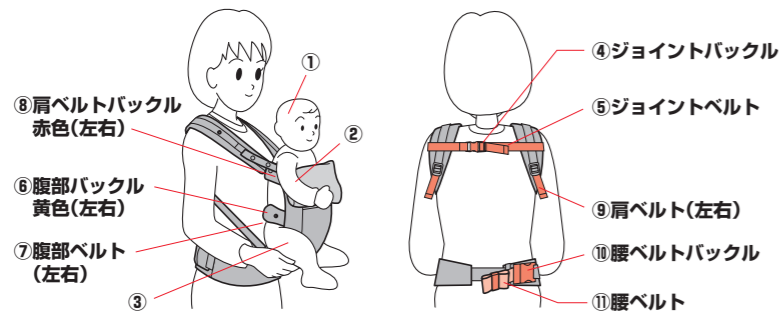
(つづく)

前向き抱っここの装着方法 (つづき)

- ⑩鏡などに姿を映して、抱っこの状態を確認してください。
正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

前向き抱っここの確認

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ① お子さまの頭部が装着者の視界の妨げにならない | ⑥ 腹部バックル黄色が確実にとまっている |
| ② お子さまの両腕が出ている | ⑦ 腹部ベルトを調節している |
| ③ お子さまの両足が出ている | ⑧ 肩ベルトバックル赤色が確実にとまっている |
| ④ ジョイントバックルが確実にとまっている | ⑨ 肩ベルトを調節している |
| ⑤ ジョイントベルトを調節している | ⑩ 腰ベルトバックルが確実にとまっている |
| | ⑪ 腰ベルトを調節している |

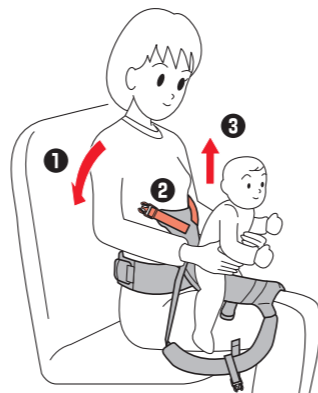


警告 鏡に映して、おんぶの状態を確認する。
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意 装着者が痛みや不快を感じた場合は使用を中止してください。特に、授乳期のお母さまは、乳房を圧迫するおそれがあります。

前向き抱っここの降ろし方

- ① 安全な場所に座り、ジョイントバックルを外し、左右の肩ベルトを外す。
- ② 左右の腹部バックル黄色を外す。
- ③ お子さまを降ろす。



警告 お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

Q&A

Q タテ抱っこの時、体が埋もれる感じになり、子どもの顔が見えない状態ですが、このまま使用してもいいですか？

A お子さまの身長に対して背あて部分が長い場合は、お子さまのお尻の下にタオルなどを敷いて、お子さまの高さを調節してあげてください。また、腰ベルトを少し高めウエストあたりに装着するようにしてください。(P17参照)

Q 腰ベルトをどのあたりに装着すればよいですか？

A 一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。

Q ベルトの余りが長く垂れ下がって気になります。

A ベルトはゴムでまとめることができます。(P10、P11参照)

(つづく)

Q&A (つづき)

Q タテ抱っここの時、子どもの肩が外に出てしまうのですが、大丈夫でしょうか？

A お子さまの肩が外に出てしまっても、使用上の問題はありません。ただし、特に腰すわり前のお子さまは上半身が不安定ですので、手で支えるようにしてあげてください。

Q 子守帯の生地と子どもの肌が触れる部分が赤くなる時があるのですが…。

A お子さまの肌に子守帯の跡がついたり、肌がこすれて赤くなる場合は、肌の露出部を覆う服を着せるか、露出部にタオルなどを当てて、子守帯が直接触れないようにしてください。

Q 製品購入後、箱を開けたらニオイがするのですが、大丈夫でしょうか？

A 製品特有のニオイがすることがありますが、品質上問題ございません。

点検について

・ご使用前に、バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、きずが無いことを確認してください。異常がある状態で使用すると、事故につながるおそれがあります。

お手入れについて

〈軽度の汚れの場合〉

・湿らせた布でたたいて汚れを落としてください。

〈洗濯する場合〉 本体、おくるみインサート、座部クッション



※ねじり又は絞り禁止



注意

・本体および、おくるみインサート、座部クッションは洗濯機、脱水機、乾燥機を使用しないでください。バックルなどの破損や、変形につながるおそれがあります。
・他の物とは別に洗濯してください。色落ちし移染するおそれがあります。
・蛍光剤入りの洗剤を使用しないでください。
・漂白剤を使用しないでください。
・漬け置きしないでください。
・濡れたまま放置しないでください。カビなどが発生するおそれがあります。
・洗濯後、充分乾燥させて使用してください。乾燥が不十分な場合、カビなどが発生するおそれがあります。
・おくるみインサートの面ファスナーをとめて洗ってください。洗濯物を傷つけるおそれがあります。
・座部クッションは、面ファスナーがほかの洗濯物を傷つけるおそれがありますので、別に洗ってください。

SGマーク制度について



SGマーク付き製品は安全性が高く、安心してお使いいただけるものですが、製品安全協会では損害保険会社と生産物賠償責任保険の契約を結んでおり、SGマーク付き製品の欠陥により、人身被害が生じたと認められる場合、事故原因、被害の程度などに応じて、賠償措置を実施します。

ただし、子守帯の場合、ご購入後3年以内の製品が対象となります。

〈子守帯のSGマーク制度の適用対象月齢は以下のとおりです。〉

- ・首すわり前タテ抱っこ：1カ月から4カ月(体重7kg)まで
- ・前向き抱っこ：7カ月から24カ月(体重13kg)まで
- ・タテ抱っこ：4カ月から24カ月(体重13kg)まで
- ・おんぶ：4カ月から36カ月(体重15kg)まで

賠償についてのご注意

SGマーク被害者救済制度は、SGマーク付き製品の欠陥によって傷害などの身体的な損害(人的損害)について賠償する制度です。この制度は、SGマーク付き製品そのものが故障した場合に補償するものではなく、また、SGマーク付き製品の欠陥によって他の物に生じた損害(物的損害)を賠償するものではありません。

おくるみインサート単体での使用、首すわり前タテ抱っこの状態で生後14日から1カ月未満のお子さまの使用、タテ抱っこの状態での24カ月を超えてから36カ月までのお子さまの使用は、SGマーク被害者救済制度の対象となりません。

製品の欠陥によって事故が起きた場合

事故が起きたら、すぐに製品安全協会へ連絡してください。

連絡後、製品安全協会から送付されてくる事故発生届等を提出していただきます。(原則として60日以内)

製品安全協会 〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミサワホームズ三ノ輪2階 TEL 03-5808-3300

〈事故の届出に必要な項目〉

- ①事故の原因となったSGマーク表示の製品
イ)製品の名前、SGマーク番号 ロ)製品の購入先、購入年月
- ②事故発生の状況
イ)事故発生年月日 ロ)事故発生場所 ハ)事故発生状況
- ③被害の状況
イ)被害者の氏名、年齢、性別、職業、住所 ロ)被害の状況と程度

保証とアフターサービスについて

- ・保証期間中(お買い上げ日より1年間です。)に部品の欠品、不良加工など弊社の責任によるもの、取扱説明書や注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、保証規定にもとづき無償にて対応を致します。ただし、部品の色・柄などについては、ご希望に添えない場合があります。また、製造中止後の製品については、対応出来ないこともあります。

アフターサービスについての連絡先

アップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社

〈電話連絡先〉

お客様サポートセンター TEL **0120-415-814**

携帯電話からご利用の場合(通話料お客様負担) TEL **0570-004-155**

受付時間:AM10:00~PM5:00(土、日、祝日、弊社所定休日を除く)

